

# 八王子ナイトウォーク-星の実の生る森へ- 八王子の自然環境を生かした映像アトラクション体験

## Hachioji Night Walk –Toward the forest where stars are fruit - Experience of video attraction taking advantage of natural environment in Hachioji

後藤美貴<sup>1)</sup>、石井睦子<sup>1)</sup>、石川花<sup>1)</sup>、鈴木日菜子<sup>1)</sup>、別所瞳<sup>1)</sup>、東郷翠<sup>1)</sup>、山岸真梨<sup>1)</sup>  
指導教員 粟野由美<sup>1)</sup>、研究協力者 宇津貫緑の会<sup>2)</sup>

1) 東京造形大学 造形学部 デザイン学科 メディアデザイン研究室

八王子の自然環境を活かし、夜の森をインタラクション要素を含むプロジェクトマッピングやイルミネーション等で彩り、楽しく散策するナイトウォークを企画、開催した。イベントはガイダンスと散策を合わせて30分程度のプログラムで、子供の安全にも配慮し、述べ400人以上の親子が参加した。映像内容を地域や季節に関連付けたものにするなどの調整により、家族で楽しめる八王子の夜の観光コンテンツとして様々な機会に開催できると考える。

キーワード：ナイトウォーク、プロジェクトマッピング、イルミネーション

### 1. はじめに

広大な八王子市は都市機能と自然資源を併せ持つ恵まれた立地にある。本学も新興住宅地域と里山が隣接する地域にあるが、街灯もない夜の山林には滅多に立ち入らない。

一方で近年は投影型映像や照明演出を活かした夜型イベントが人気を集めている。そこでこれらふたつの状況を組み合わせ、映像アトラクション体験を企画した。夜の森を散策することは、特に子供には普段は許されておらず、それゆえに特別な高揚感を味わえる。その点に鑑み、投影映像により森の陰影を浮かび上がらせるプロジェクトマッピングやライティング・オブジェのイルミネーション演出、インタラクティブな要素を盛り込んだ架空の物語世界を散策するコースをデザインした。開催には大学コンソーシアム八王子のご支援をうけ、宇津貫緑地の保全活動を行なっている宇津貫緑の会の方々にも警備や運営面でご協力をいただいた。

### 2. イベント内容

八王子みなみ野駅からバスで15分ほどの所にあ

る宇津貫緑地内の、我々が歩いて20分程度で全体を巡る事が出来る範囲を会場とした。当日は緑地の中央に建つログハウスで、ミニイベントや映像化ガイダンスを行った。天候により9月16日のみの開催となった（画像参照）。

### 3. 運営について

#### ・ ウエルカムエリア

ログハウス前の広場にテントを設け、当メンバーによる記念缶バッジ作りコーナーや造形大と多摩美大の学生が運営するアクセサリーショップmintakaのショップ、社会福祉法人由木かたくりの会の菓子販売を行なった。

散策は5人1組でスタート時間をずらして運営したので、待ち時間も楽しんで頂けるようログハウス内イベントとし、宇津貫緑地のトレイルカメラ映像鑑賞やオカリナサークル演奏会を催した。

#### ・ ナイトウォーク

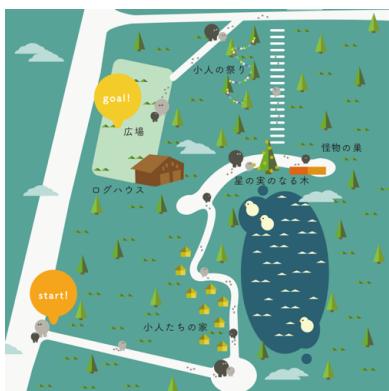
散策ルートの7か所にプロジェクターを設置し、プロジェクトマッピングを仕掛けたり、家型のランタンやイルミネーションを道の両脇に設置して装飾を施した。

#### 4. 結果と今後の展望

ナイトウォークは多くの人が写真を撮影したり、普段静まりかえる夜の森に賑やかな笑い声が響いたりして、ゴールチェック時には皆さんが笑顔で楽しかったと言ってくださいました。ほかの場所でも、その場所やその季節に合わせた内容の映像コンテンツを用意して、家族で楽しめる八王子の夜の観光コンテンツとして様々な機会に開催できると考える。

今回は参加者の安全管理のため広報活動を控えめにし、地域の4つの小学校に絞って案内を配布したが、結果か5人1組、合計約90グループ、述べ400人近くの参加があり、予想以上の嬉しい反響であった。露店も繁盛し、かたくりの会の商品は完売、mintakaも7割近くを売り切り、缶バッジ作りも人気を博した。露店の種類や内容を増やすとより長時間の滞在型イベントにできると考える。

【ナイトウォークのフライヤーとマップ】



【実際のナイトウォーク中の様子】



【ナイトウォークイメージ図】

